意見交換の概要
（令和２年９月３日（木）・愛媛大学）

１．新しい観光産業について

私は大学進学に当たり沖縄県から愛媛県に移住してきた。そこで愛媛県の観光と経済についての展望をお伺いしたい。

愛媛県の観光産業は、名所などを見る観光と実際に触れてみたり地域の方と交流する交流型観光に特化していると感じた。その成功例として、松山市においてはロープ―ウェイ街、道後温泉、松山市以外でも東予・南予各産業で成功していると思う。また、観光客は若年層に比べ高齢者層が多いと感じている。

少し脱線するが、愛媛マラソン実現に際して知事のすさまじい努力は記事で拝見した。新しい観光産業をつくる際にも大きな反対の声は上がると思うし、決して楽な道ではないと思うが、知事は今後若者の観光客増加、観光リピート率の多い県に向けた新しい観光産業の実現に向けてどうお考えか。

【知事】

まあ、何でもそうなんだけれども、一番楽なのは何もしないことなんだよね。何もしないから批判が起こらない。それが一番楽な道なんだけれども、それでは発展がないんで、チャレンジチャレンジを続けてきました。

松山市の仕事をしていた時代だったんだけれども、ロープ―ウェイ街の改修、道後温泉前の整備、愛媛マラソンの実施とか、これもそれぞれ猛烈な反対があったんですね。

例えばロープ―ウェイ街は今はきれいになってるけれども、僕が市の仕事をしてた平成 10 年頃はボロボロの幽霊商店街みたいな感じだった。にもかかわらず、あの短い通りが３つに分かれていた。なんか、かつてあそこの店のおやじとあそこの店のおやじがけんかして分かれたとか、くだらないことで分かれてた。その３つが、それぞれが僕に補助金出してくれって言ってきた。統一感も何もない。どうしたかっていうと、「こんな小さな商店街でまとまることもできないところに市民からお預かりしている税金をびた一文使わない。ゼロです。」と言って、本当に２年間本当にゼロだった。何もしなかった。無茶苦茶言われた。「次で落としてやる。」とか。「そう、いいと、そんなんは。その代わり３つまとまってくれたら、120%応援します。」と。二つに一つ。２年間やって、向こうが変わって「まとまってやる。」と。「まとまってやるって何やるの。」「きれいにしたい。」電線を地中化して、アーケードを撤去して統一の庇をつけたり、いろんなことをやることになった。その時に、事を荒立ててよかったな、と思ったのは、普通、行政が景観整備するとなると、行政がやって売り上げ落ちたらどないしてくれるんねん、ってなるんだけど、自分たちがやりたい、って言ったわけ。「皆さんがやりたいって言ったんですよ、２年間我慢できますか。」って言ってたら、何が起こるかっていったら、クレームは何も起こらなかった。なぜなら、２年間の工事期間中売上が落ちたけど、自分たちがやりたいって言ったから。これがまちづくりなんだなと思いましたね。道後温泉も同じ。あそこは、10 年前は、温泉の前は車がガーガー行きかって、観光客からは「記念写真撮るのも命がけや。」ってボロクソ言われてたんだけど、今は本当にきれいな空間になった。それは、ロープ―ウェイ街の後に、「ロープ―ウェイ街はこうやりましたよ。」って言って、「じゃ我々もやる。」、１つの事例ができれば伝播していくものなんだと感じましたね。

愛媛マラソンを最初に仕掛けた時は、反対だらけ。どんな反対があるかというと、まず、コース全面変更で４時間から６時間にしたんで、まず商店街反対「売り上げが落ちる」、それから鉄道会社反対「電車の運行に支障がでる」、それからバス協会反対「バスの運行に支障がでる」、トラ

ック協会反対「トラック輸送に支障がでる」、北条の方はゴルフ場がたくさんあるからゴルフ場連盟反対「客が来なくなる」、その沿道にあるガソリンスタンド業界「逆行になるから」反対、警察は「６時間の警備なんかできません」と反対、これを１個１個説得してやっとゴールまで辿り着いたイベントなんだけども。何でもそうだけれども、大変だけども成功したら感動は大きいと思います。

愛媛県の場合、昔から、これは四国全体に言えることなんだけれど、どちらかと言えば派手さはない、高齢者の観光客が多かったのは事実なんです。例えば、ＪＲグループがいろんなエリア毎の企画をするんだけれども、四国で一番多かったのはフルムーン旅行、定年退職したら四国へ行こう、ご夫婦で、っていうのが多かった。何とかしたいなと思っていて、県と市の仕事をするようになって思ったのは、ディズニーランドを参考に、ディズニーランドがなぜリピーターが多いかっていったら、ほかの遊園地と違って、ハードよりもソフトを重視している。そこにあるエキスっていったら、物語じゃないか。だから、物語のある観光というのが派手さはないけど、またの気持ちを味わいたいっていうところで人をひきつけるんじゃないか、ということで松山市の時にトライしたのが、坂の上の雲のまちづくり、これはテレビのドラマにまでもっていくことでひとつの完結をするんだけど。そしてこちらに来て、東京の人は疲れ始めている。あんなコンクリートジャングルで、僕もいたけれども、今なんか東京に出張行くと３日が限界で、もう早く帰りたいと。そんな気持ちはみんな持ち始めているはずなんで、これからは自然とか体験とかに人々の気持ちは動くと。ほかと同じことになっても仕方がなんで、突出した存在になるために何がいいかなって見つけたのがサイクリングだった。我々はしまなみ海道を持ってるから、ここを世界のサイクリストの聖地にして、第一段階はしまなみをサイクリストの聖地にして、第二段階で愛媛県をサイクリングパラダイスにして、第三段階で四国をサイクリングアイランドにするという、中長期的な戦略というものを当時からたてながら、ひとつひとつ追っかけているというようなことをしています。

これから仕掛けたいのは、体験、まさに体験交流型の磨きこみなんだけれども、例えば東予には石鎚山の登山、あんな体験できないんだよね。こんな大きな鎖をよじ登っていく、あんな登山なんてどこでできるのって。もっとアピールすればいいのにね。

そして、しまなみのサイクリング、日本で最も人気のあるサイクリングコースになった、今世界でも認められる存在になった。

南予に行くと、松野町というところにキャニオニングってのが。ここは大阪、関西の若者がいっぱい来るんだけど、滝つぼに、40 メートルの自然のスライディングでドターンといけるジェットコースターみたいなんがあるんだよね。ここの体感。

それから、今度、今人工的に作る予定で準備しているんだけども、こどもの城、要は東予と南予があるから中予がほしいと。こどもの城と動物園を結ぶジップラインを計画しています。西日本最大級で池の上をジップラインでいくという。しかも、こどもの城と動物園を行き来するという、移動手段として活用するという、両方の施設の賑わいにつなげれるような体験型のものがほしいな、ということで今準備しています。

こういったことも含めて、愛媛にあるものをフルに活用し、それは今の時代の流れを読み切る。都会は特に疲れ切っている。自然、体験、こういったところが一つポイントになってくるのかな。そしてもう一つは、物語というエキス、こういったことを中心にやっていきたいなというふうに思っています。

２．愛媛の芸能分野やエンターテイメントについて

今現在、若者の県外流出が問題になっているが、若者に人気のエンターテイメントを盛り込むことで県外への流出を軽減させることができると思っている。そこで県内にライブハウスや小規模なホールを作ることによって個人での活動が容易になりエンターテイメントが盛り上がると考えている。そして、地域に密着した映画づくりや舞台作品をつくり、愛媛の若者の起用の企画を行うことで県民がより盛り上がっていくのではないか。

また、愛媛は俳句であったり、文学イベントが盛んで、知事もマラソンに参加されていたりとスポーツイベントもすごく発展している中で、音楽イベントや芸能イベントは少ないように感じる。例えば、全国で人気の猫の島である青島に関するイベントで著名人を呼んでみるのはどうか。また、県民の有志を募り、音楽イベントを開催するのも、県内のエンターテイメントの発展に通ずると思う。愛媛マラソンでは、毎年ゲストをたくさん呼ばれているが、スポーツ以外のイベントでも著名人を多く起用していけば、来県者やイベント参加者数が増えていくと考えている。例えば、伊予市の方では、ますます伊予市観光大使である声優の小野賢章さんや新居浜市出身の水樹奈々さんなどを起用していけば、情報発信力もあり、県外からの来客者、また県内でもより人気になっていくと思う。そして、私が通っているような芸能系の学校もあるので、県民と県、そして私たちの学校が連携していけばエンターテイメントは発展すると思う。芸能を用いることで華やかさがでて、情報発信のアピール力が増すと思う。

こういった芸能分野やエンターテイメントについて、県知事はどのようにお考えかお伺いしたい。

【知事】

結構、愛媛県出身で活躍して全国的に頑張ってる人材がかなりいて、ほとんどが愛媛観光大使になってくれています。愛媛のイベント等では意外とこまめに参加してくれているんです。そうだな、例えば東予だったら水樹奈々ちゃんは本当によくやってくれていて、例えばみきゃんがゆるキャラグランプリに出たときに「ファンの皆さんに、みきゃん応援してよって言ってよ。」って言ったら、コンサートと Twitter でやったら、翌日得票数がどばーって伸びたし、すごいインパクトなんだなとその時知らしめられた記憶もあるし、まあ水樹奈々ちゃんの場合は新居浜及び愛媛の観光大使をやってくれてるんで、彼女なんかは、「もう何でもやりますよ。」っていう、とってもいいキャラクターだと思います。そのほかにも、西条だと真鍋かをりさんもすごく「愛媛のことだったら何でもやりますよ。」って協力してくれますし、中予だったら友近がしょっちゅう帰ってきてくれているし、最近では和牛の二人、特に水田くんが伊予市出身なんで、川西くんがそれに引っ張られて「いいやない、もう愛媛県でいいやん。」って言って歌まで歌ってくれて。南予には、最近、まだこの子には会ってないんだけど、やってくれないかな、と思ってるのが、「鬼滅の刃」の竈門炭治郎の歌を歌った中川奈美ちゃんって子、あの子、宇和島出身なんだよね。「鬼滅の刃」見た？

（参加者）

はい。

【知事】

炭治郎の歌、聞いた？

（参加者）

聞きました。

【知事】

あれいい歌でしょ。中川奈美ちゃん、宇和島出身なんです。歌うたってる子。ＬＩＳＡは別だけど。あと、久万高原に藤岡弘、藤岡さんもしょっちゅういろんなことで協力してくれるんで、大いに活用していきたいと思います。あとお笑いでみかんちゃん、みかんちゃんなんか、「招くり

さいくっていうイベントを県民文化会館でやるんで知事も出て漫才やって。」とかって、無茶苦茶なオーダーがくるんで、やらされましたよ。そんなうえで愛媛県のそういう人脈は大事にしていきたいなと思っています。

それから文化の関係でいうと、例えば、今年はコロナで来年は中止にしたんだけど、去年から国際映画祭っていうのにチャレンジして、これは映像というのは、つくり込みっていうのは、本格的なものもあるし、もう一つ考えたのは、テーマを与えて自分たちでつくってみたり、今もう機器も安くなってるし、ソフトウェアも簡単に手に入るんで、映像のつくり込みっていうのは素人でもできるようになったんで、そういう分野を作って映像を楽しもうと。もともと愛媛県ってのは、映画の発祥期にはかなりの人材を輩出した県で、例えば、皆さんの時代にはないけれども、時代劇ってのが昔一つの分野として成立していたんだけども、その草分けが伊藤さんっていう方、この人は愛媛県出身で、その後同じ時代に伊丹万作さんという人がいて、その息子さんの伊丹十三さんが「マルサの女」とか「スーパーの女」とかいろんなシリーズをつくって全国に知れ渡った存在になったり、映画界ではかなり初期段階で輩出してたんで、これは大事にしていきたいなというふうに思っています。

それから、子どもたちの活躍の場を作ってあげたいなと思ったんで、数年前から「子ども芸術祭」ってのを始めたんですね。なぜかっていうと、こどもの城ってすごい広大な空間なのに有効に使い切ってないんじゃないかと。だからここを舞台に子ども芸術祭をやって優秀作はそこに未来永久、半永久的に展示してあげるっていうね夢のような空間にしていけばいいんじゃないかって、そういうのが始まっています。

音楽については、市の仕事していたときに、たまたま a-nation(エーネーション)っていう、まあ当時は浜崎あゆみとかＢｏＡとか安室奈美恵ちゃんがまだ前座でＡＡＡが出てくるような時代だった。a-nation 引っ張っちゃえって、堀之内公園を借り切って無料の a-nation ツアーってのをやったことがある。本チャンは砥部の運動公園でやってて、原宿の東京の本社へ行って、a-nation いっぱい来てて、「みんな何曲か歌ったら暇してるんでしょ。」と。「トップクラスはいいから、その次の次の世代くらいを、この堀之内によこしてくれ。」と。そこで出店とか出してやったらすさまじい勢いで全国から人が来たんだけども、今ちょっと止めちゃったみたいなんだけども、その時前座で出てたのが、ＡＡＡだとか、あと記憶に残ってるんだとＭａｙＪ（メイジェイ）、それから鈴木亜美、このあたりが前座だから。市役所の人たち何にも知らないから、「次どんなのが来るの。」って言ったら、「すごいのが来るらしいんですよ。スリーＡってのが来る。」「それ、トリプルＡって言うんだよ。」って。こんな時代だった。だから、やりようによってはできるんじゃないかなと。でもこれは、規模からいくと、市や町の単位でやっていく方が仕掛けやすいのかな、と思います。

ライブハウスとかそういうところは今回コロナで一番苦境に陥ってた業種なんです。そこは、ライブイベントに補助金を出したり、あるいは、厨房があるところはテイクアウトでしのいでくれ、と。あるところは、タコ焼き売ってたり、そんなのをバックアップしながら存続の支えを行政としてはやってるところです。以上です。

≪補足説明≫〔スポーツ文化部〕

愛媛国際映画祭では、本県出身の映画プロデューサー桝井省志さん、映画監督の冨永昌敬さんに関わっていただくとともに、愛顔感動ものがたりにおいては、水樹奈々さん、中川奈美さんに参加頂いており、引き続き、本県出身の芸能分野で御活躍されている方々に御協力頂きながら事業に取り組んでいきたい。

３．まちの中心地における交通網の整備について

松山には松山城や道後温泉以外にもサイクリングや石鎚山のような魅力的な観光圏があるということですごく納得したが、逆にそこへのアクセスがまだ弱いのではないかということを強く感じている。私は松山に住み始めて４年目になるが、松山に来た際には、すごく住みやすい町だなということは感じた。コンパクトシティであるというのがすごく大きい。県でも掲げているように、歩いて暮らせるまちづくり構想というのがすごく素敵だなと思ったが、中心地が便利であることで、逆に公共交通空白地域がすごく目立っている。

具体的には、本町線が短すぎるのでもう少し延ばすことと、環状線が現在の環状線の周りにもう一周あったらぐっと便利になるのではないかなと感じた。交通網の整備がほとんどイコールで町の発展にもつながるのではないかと考えているが、もし現段階で交通網の整備についてお考えがあればお聞かせいただきたい。

【知事】

愛媛県っていうのは、実感として住みやすいという話がありましたけれど、データ的にも、それはある程度証明できるんですね。例えば、全国の県庁所在地の中で、物価が一番安いのは、沖縄か宮崎かどっちか。物価は愛媛松山は９番目に安く、さらに家賃については全国で２番目に安い。それから通勤時間、これは全国で３番目に短い。それから余暇時間、仕事をした後の余裕のある時間、これは全国で２番目に長い。それから災害の少なさ、これ全部データで出ています。で、それらを総合的にみていくと、住みやすいというのは当たり前の実感につながっていくということがデータでも証明されてるんで、ここは自信を持って言えることなのかなというふうに思います。もう一つ、空港と市内の距離、今だったら、バスで 20 分くらいでしょ。これ、日本一短いんですよ。同じ時間の距離なのが福岡。松山空港と福岡空港が市内とゲストの玄関口である空港が短時間で行けるというデータもあります。例えば、お隣のどこかなんかは空港行くのに１時間 20 分くらいかかる。山の上につくっちゃったんで、すごい遠いとか。それが当たり前なんだけど、そういうことが全然ない。

まあそういう中で、松山市の時に、歩いて暮らせるまちづくりというコンパクトシティ構想というのを打ち出して今に至っていると思うんだけれど、その時に嬉しかった、ありがたかった財産というのは、市内電車だったんですよ。市内電車は戦後の公共交通機関として結構あの時代は増やしてあったんだけれども、ある時期、無用の長物と言われ始めて、ほとんどの町が撤去していった歴史があります。その中で、全国で 17 くらいかな、市内電車が残っているのは。四国だったら高知にもあるし、熊本にある、広島にある、京都にあると。数えても十幾つしかないんですね。よくぞ残ったと。特に愛媛の場合は、ちょっと難しいのは民間会社がやってるんですよ。公ではないんですよ。ですから、当然のことながら民間会社の体力に応じた、もちろん、補助金とかは出すんだけれども。例えば、今、路面電車で低床式の静かなやつが走ってますよね。あれを導入する時ってのは、愛媛県も国も補助金を出しています。そういう人に優しい電車ということで、それで自前のお金も出しながら導入が進められているという、こういう関係になっている。そういう意味で、民間である鉄道会社がどういうプランを描くかということで変わってきてしまうところがあります。本町については、本当、あそこは堀江辺りまでいったら全然違うのになと感じることがあるけれど、これはちょっと今の経営状況からすると難しいんだろうなと思うんです。もっとおしかったのは、昔、僕らが子どもの頃は森松線というのがあって、南の方にもう１本伸びてたんですね。あれ、やめちゃったんですね。実はあれが残っていたら、例えば、少し延伸すれば、砥部の総合公園だった。全然変わってたんで、あれを廃止したのはもったいないなという思いはあります。過去を振り返っても仕方ないけど。

もう一つ動いてるのは、ＪＲの駅前開発なんですね。ここ、あと数年で立体になると思います。その時に今はＪＲに伊予鉄で走っていくと、駅にぶつかると右にターンしてグランフジに行って

ますが、あれを直進させる計画です。立体となった下を交差する形でその先の松山総合公園までとりあえず延伸することは決まってます。これはもう工事に入ってると思います。これ、なんでここにこだわったかというと、僕の時代ではもう無理だけれど、その先山沿いに行くと空港に行けるんですよ。例えば、将来、空港に着いたら、坊ちゃん列車が待ってて、それに乗って市内にガタガタ入ってくる、なんてこんなおしゃれな街ないんじゃないかっていうのが当時の構想だった。まあ、是非皆さんの時代に実現してほしいなというふうに思ってます。坊ちゃん列車は、平成 14 年、市の仕事をしている時だったんだけれども、鉄道会社に「まちのためにもっとアグレッシブルなことやってくださいよ。」と言って掛け合って。何を求めているかと聞かれたので、「みんなが願ってる坊ちゃん列車の復活です。」ということで、これは当時補助金も出してやってくれた経緯がありました。その時、なんであれにこだわったかというと、みんな世の中は、新幹線新幹線新幹線だった。より速く、より便利に、ということばっかり言ってたんで、こういう時こそ逆転の発想で、世界で最もゆっくり走る公共交通機関で勝負だと言って『時速 10 キロの世界へようこそ』というキャッチフレーズで導入が決まった経緯があります。その時のインパクトが欲しかったんで、第一号のお客さん、丁度、シドニーオリンピックの直後だったんで、世界で最もゆっくり走る公共交通機関の最初のお客さんにふさわしいのは、世界で最も速く走る人っていうことで高橋尚子ちゃんに乗ってもらった、そんな経緯がありました。その結果、縁ができて今でも愛媛マラソンに来てくれてるというようなことにつながってるんだけども。そういう意味で、今の段階で計画があるのは、ＪＲのところくらいかなあと思ってます。ただ、鉄道というのは、みんなが利用しなかったらなくなっていきます。便利だな、いいなあと思っている人はたくさんいるんだけども、是非、積極的に利用をしていただきますようにお願いしたいと思います。

４．新型コロナウィルス感染症対策について

私は、今のこういう状況だからこそ、コロナウィルスについてお聞きしたい。

全国的に見ると、都市部に比べて愛媛県は感染者が少なく、ニュースで見て安心して感染対策をしながら大学に通っているが、たくさんの人が言うように、コロナウィルスはもっと長期的にずっと続いていくものだと思う。先日ニュースで見たが、一度コロナウィルスにかかった人が二度目の感染をしたというのを聞いて、やはりコロナウィルスもどんどん変化していくと思っている。なので、長期的な面で見てこのコロナウィルスの変化に対して、何か対策であったり変化に対するお考えを聞かせていただきたい。

【知事】

とても難しい。というのは、僕らも医療に関して言えば素人なんですね。ですから、このコロナに根本的に立ち向かう対策をつくり出せるのは、医療関係、医薬品関係、これは日本だけでなく世界中の関係者の、競争にもなり始めてるんで、やがては出てくると思うんですけれども、ただ、怖いのは、まともにやると２、３年かかると思うんですね。というのは、臨床試験をしないといけないんで、当然、コロナに効くってことが分かっても、副作用は大丈夫なんだろうか、という問題もで出てくるんで、それには、まずは 100 人単位で、あるいは数千人単位で、数万人単位でっていうのをやらないとですね、広範囲に使えるというところまでは本来はもっていけないので分かりません。ただ、心配なのは、とりあえずやっちゃえっていう空気が今すごく来そうになって、やっちゃえというふうになってきてるんで、大丈夫なのかなという気がしてならないんです。その辺は、僕は専門家ではないので分かりません。だとするならば、一つ救いは、この数カ月向き合っていて、感染力は強いんだけど、重症化率は低いんですね。だから、むしろ意外に話題にならないんだけど、インフルエンザの死亡者数の方が圧倒的に多いんですよ。だから、インフルエンザの一つのようになっていく可能性は、ワクチンさえできればですね、考えられるの

かなと。そうすると、重症化のところに集中した対策をとることによって、命を救えるということにはつながっていくのかなと。だから、この医療崩壊だけは絶対に起こさせない、というのが、このコロナウィルス感染力が強いからすごく難しいんだけど、大事な視点かなと思います。先ほど冒頭に申し上げたように、病床を種類ごとに分けているというのはそこにあるんですね。無症状でも重症病棟にいたら、重症病棟はあっという間に埋まっちゃいますよね。本当に重症になった人が入るところがなくなってしまう。そういう方々は宿泊療養施設でホテルに泊まっててください、とか、きめ細かい色分けが大事なのかなと思っています。

よく議論になる、何が正しいか僕も分かりません、検査をもっともっと増やしたらいいんじゃないかという議論なんです。ただコロナの怖いところは、まさに、一度かかっても変異でまたかかる可能性がある。今日陰性であっても、３日経ったら陽性になることもある。じゃ、ここに全員無症状の人も含めて検査をやったとします。３日後どうなるのかね、ということは、このやり方でやると、定期的に毎週か２週間に１回検査してやっと効果が出てくるんです。それをすると、べらぼうなお金がかかる、手が足りない、こんな問題も出てくる。そうすると、そのやり方が果たしていいのだろうかどうか。となると、医療崩壊という心配も出てくるんで、やはりお医者さんの力を借りてお医者さんが検査した方がいい、というところをどんどんやるというところに集中して、病状毎の医療を構えてきちっとやるというふうなことが、今の段階、一番正解なのかなというふうには思っています。

５．新型コロナウィルス感染症の医療従事者に対する補償について

私は、来年から看護師として働く。その際に、今も医療従事者の方々は日々感染症のリスクを背負いながら業務をされていると思うが、そういった方々に対して　国や県からの補償が十分ではないという声が聞こえてくる。そういった声に対して、愛媛県知事として、医療従事者に対して十分な支援がされているとお考えか。御意見を聞かせていただきたい。

【知事】

そうですね。一つ問題になるのは、人間は人によって捉え方も違うんで、全員が満足することはない、ということが社会の前提だと思います。十分でない、という声はどこまでいっても消えることはないと思います。果たしてそれがどれだけのマスのデータなのかが分かんないんだけれども、実際には、コロナで病床を空けてくれた病院に対しては補償が出ている。それから愛媛県は単独で、コロナに従事されているお医者さん、看護師さん、保健師さんには特別手当を出す仕組みをつくっています。これは国もあるんですね。その金額は、当然財源ってのは限りがありますから、十分かって言ったらこれは分かりません。それで十分ですと言う方もいれば、これは全然足りないと言う人もいれば、これはどうにも答えは見えてこないですね。限られた条件の中でできるだけ配慮する。例えばそういうことを全くやってない、というんだったら大問題なんだけども。かなりきめ細かく、この仕事に従事した方々については特別手当を出しましょう、っていう制度はつくっているのが現段階です。それが十分かどうかというところの答えは僕には分からない。

６．獣医学部開設に対する県の思いについて

私たちの大学である岡山理科大学今治キャンパスに関することで質問させていただきたい。

獣医学部としては 52 年ぶりに開設された私たちの大学だが、率直に私たちの大学ができてどう思われたか。また、開設されて３年が経ったけれども愛媛県として何かしらの変化というものがあったのか。また再来年３月にはなるけれども、獣医保健看護学科で私たちの大学で初めて卒業生がでる。獣医師は獣医としての仕事以外にも、食肉検査やまた公務員獣医師などの仕事、獣

医保健看護の方は獣医関連専門家（ＶＰＰ）としての役割として動物園やトリマーなど幅広い仕事がある。
　愛媛県として、今一番来てほしい獣医師や獣医関連専門家としてはどのような人がいるのかを教えていただきたい。

【知事】

実はこの問題、いろいろと複雑な経緯がありまして、もともとは平成 18 年くらいのときに、全国の獣医学部というのが関東に全部集中していると。愛媛県にも獣医師の先生、職員として採用いっぱいしているんだけども、全員そっちから学んでこっちに帰ってきてくれてるんだけども、当時調査しているところによると、全ての獣医学部において、定員オーバーという状況だったんだね。ここがミソで、定員オーバーだったら余裕があるんで別にもう１校作ったらいいじゃないかと単純な答えが普通だったら導きだされるんだけども、なぜそれがなされてなかったかというと、この定員オーバー分が大学の収益になってた。本来だったら 100 人の生徒を集めるのに 30 人の先生方を揃えないといけない。120 人だったら 40 人にしないといけない。というのが普通のルールなんだけれども、定員オーバーを認めてた。ということは、30 人で 120 人を教えられることができてたわけ。本来の 30 人で 100 人のプラス 20 はそのまま大学の利益になってた。これを既得権といいます。これを全大学手放したくない、ということで新設は一切認めない、というのが歴史的に続いていた状況でありました。

そこで愛媛県としては、当時、この状況はおかしいんじゃないか、ましてや西日本、愛媛県も獣医師の資格を持った人を募集しても、定員割れをおこすような状況で足りなかったんです。だったら西日本に１校あってもいいんじゃないの、定員オーバーしてる実態もあるし、しかも周辺も含めて西日本では公務員獣医師が不足しているんで、そこで拠点ができれば採用できるんじゃないかってことで、誘致が始まったんですね。実は、今言った既存の既得権は絶対使わせないということだったんで、僕、正直もう無理だなと１回思いました。無理だから止めた方がいいんじゃないの、別のことしようかってんで、サッカー場をつくろうっていうのを提案していろいろやってたんですけど、今治市がどうしても獣医学部がほしいというふうな声が強かったんで、「今治市さんがそこまで言うんであればおっかけましょう。」ってやってたんです。いろいろとゴタゴタして、我々としては来てくれるのはウェルカムだと。ただ、大学の先生や教えようとしているスタッフ、それから事務職の人たちは一生懸命だったんだけれども、その上の経営側に不透明なところがあるんじゃないのと。それでは税金を出す側だからきちっとしてくれないと県民を説得できませんよと。だからクリアにしてくれってことを言い続けて、それでゴタゴタしていたってのがいきさつなんです。ですから、来てくれ、ほしい、来て採用につながればという思いは当初から変わってません。ただちょっと心配しているのは、当初作るにあたって地域枠っていう、地元枠というかな、それをある一定お願いしますよ、ということは申し上げてたはずなんですが、そこはちょっと少ないんですね。そこがちょっと心配。それからもう１点は、これから卒業してこられる方が、これからどこへ行くのか。当初の狙いどおり、愛媛県にも、あるいは西日本周辺にも、獣医師として公務員として頑張ってくれる人材が生まれるのかどうかってことが、これ蓋開けてみないとわかんないんだよね。だから、そこはちょっとまだ分かりません。

ただ、一方で愛媛県は農林水産県でもあるんで、畜産の関係、鶏肉の関係、あるいは水産の関係、水産、これは僕も知らなかったんだけれど、獣医師の関係なんだってね。そうなると、いろんな分野で必要なんですよ。特に愛媛県ではさっき言った畜産研究センター、養鶏研究所、水産研究センターと全部研究機関をもってますから、そこで何やってるかっていうと、生産者が収益を上げるための品種改良、生産者が収益をあげるためのコスト削減技術の開発、いろんなことやってますね。かつ、もうひとつ問題になってきてるのが、鳥インフルエンザであるとか狂牛病で

あるとか、こういった伝染病対策、そうしたことも含めて人材がほしいと思っていますので、是非トライしてみてください。お願いします。

７．これからの歯科医療に求めることについて

医療に関連した内容になるが、新型コロナウィルス感染症の流行で各メディアに取り上げられた中で、私は肺炎に注目した。肺炎は歯科医療に大きく関連しており、特に誤嚥性肺炎なんかは、歯科衛生士の口腔ケアで予防ができる。高齢者の方が増えている今、口腔ケアは全身疾患の予防や健康寿命の延長、またＱＯＬの向上などにも大きく貢献できる。そういった面で私は将来医療の現場に出るにあたって責任とやりがいを感じた。

これからの歯科医療に求めていることなどがあればお伺いしたい。

【知事】

そうなの。どういうふうに。

（参加者）

寝たきりの方が、お口から食事をとられない方でも、お口の中には菌があるので、そういう方は口腔ケアがあまりされていないんですけど、寝ている間に唾液などが流れ込んで誤嚥性肺炎で、肺炎は日本の死因のトップ 10 に入るくらいの大きな病気なので、そういった病気を口腔ケアで予防できるんです。

【知事】

歯科医さんという立場の方が県内に大勢いらっしゃって、そこで、歯科医師会という会がつくられてネットワーク化されていますね。実はその存在は非常に大きいんですよ。特に機動力を考えると、県の歯科医師会よりは市町単位の歯科医師会の方が親睦だけでなく、もちろん親睦もやってるんですが、共同事業ってのをやってる。これが非常に大きなポイントになってくるかなと思います。もちろん、個々の医院さんにおいては、通院される方々の口腔ケア、僕らの口腔ケアだけでなく虫歯の治療、場合によってはインプラントをやる方もいるでしょう。それが人々の健康に結びついている地道な治療をいつも行ってくれています。ただし、今歯科の口腔ケアというものが、今言われたように、他の疾病の予防にも大変効果があるということは、実際証明されてきてますから、例えば、口腔ケアだけではないのかもしれません。食育も含めて、そういう啓発活動も大事だし、今歯科医師会を上げて先生方も宣伝に出ている「8020 ヨーグルト」なんてのもその一環だと思うんだけど。これ、らくれんさんが発売した広島大学の先生が発見した 8020 菌という、これが虫歯の予防とか、歯の健康維持につながるというのが分かって、この 8020 菌を入れたヨーグルトを発売して、結構食べてるんですね。おいしいから。「なんで 8020 って言うんですか。」って聞いたら、「80 歳で 20 本の歯を維持するという、そのお手伝いをするのがこのヨーグルトなんだ。」なんか、そうなのかなと思って、それ以来食べるようにしてます。

そういう意味では、子どもの頃から口腔ケアっていうのも全体の健康維持につながるとするならば大事だと。特に、今の子どもさんなんかは、昔は考えられなかったんだけれども、小学生にして、食の片寄りによって虫歯が増えたり、場合によっては糖尿病になったり、そんなことまで出てきてるというんで、歯科医師会の中にまた学校歯科医師会というグループがあって、これは各小学校や中学校をグループとして業界として応援していこうというんで連携してます。

僕が市長の時にもう一つお願いしたのは、これ歯科医師会もどうしてもやりたいということだったので、「寝たきりの方々の対策として、巡回口腔ケア、待ってるんじゃなくて、歯科医師会として当番を決めて必要なところに訪ねて、巡回していく、それに使用するためにポータブルな機材が必要なんだ。」と。「これ高くて何百万もするのでまとめてほしいんだ。」ということで補助金を出したり、そんなことをしてました。今、市町の歯科医師会で、今言った啓発活動、学校歯科

医の活動、巡回事業に取り組んでるんで、ますます拡大していくんじゃないかなと思っています。

８．離島における感染予防について

離島における感染予防についてお聞きしたい。
弓削商船はその名のとおり弓削島にあり、弓削島というのは島なので、病院へのアクセスの悪さや高齢化なども深刻で、もし感染者が島内で出てしまった場合には、深刻な問題になると考えている。また、島で起こった場合は、「あの島の人だから。」と差別や偏見なども起こりやすいのではないか。
そこで、離島における感染予防について考えをお聞きしたい。

【知事】

これ本当に難しいんですよ。今、与論島で感染が拡大した、あるいは、長崎の五島列島の一部で感染者が出たと。もうこうなってくると、島はロックダウンでシャットアウトで乗り切るしかない状況になろうかと思いますんで、一番大事なことは、さっき言った一人一人の感染防止対策を徹底していただくということと、水際対策だよね。船で入ってくるケースばかりなんで、受け入れの場合も船になるから、そういったところでの水際対策。これ、難しいのは、広島側との問題があるから、統一にできないというところもあって、でも、その辺のところは可能な限り連携しながら対策は打っていきたいと思っています。

これが難しいのは、島の生活も考えないといけないんで、これは島だけに言えることではないんだけれど。本当にコロナ対策で頭が痛いのは、完全に乗り越えるためにはロックダウンして人が動かないようにするのが手っ取り早いんだけど、それだと、経済死という問題が出てくる。働く場がない、お店がやっていけない、収入がない、経済死してしまう、倒産が始まる。こことのバランスをどうやりながら乗り越えていくかっていうのが、一番難しいハンドリングであり、困難なテーマだと思っています。

今も、例えば、ＧｏＴｏキャンペーンというのがあって、愛媛県としては、東京の状況をみると、一律にやるのは難しいんじゃないかってことで、６月は県内に限って県は応援します、７月に入ったら四国、８月からは、当初全国と思ってたんだけれども、中四国、九州の一部というところに愛媛県としての旅行割引制度というのを適用しているんだけれども、プラス空港においては、４月から検温を再開したり、あるいは特急の停車駅、港、これが水際対策なんだけれども、館内放送やチラシの配布で啓発を呼び掛けたりってのは、ずっとやってきてました。島もまさしく縮図として同じことをやるということになろうかと思ってます。島の場合、出てないが故にまだ分からないんだけれども、あの島で出たっていうのは、確かに、そういう声が飛び交う可能性もなきにしもあらずだし、どんなに呼びかけても、ＳＮＳでの無責任な投稿ってのは止まらない。そういう人たちが、悲しいかな世の中にはいるんです。逆に不安をあおることによって、確信犯的にやっている人もいるから、呼びかけ続けるしかないと思っています。日頃から、今落ち着いてるんで、「何かがあってもそれはやめようね。」と皆が口々に言い続けて、例えば学生なんかが一斉運動しようと、「何かがあっても、探るのをやめよう、特定するのをやめよう、非難するのをやめよう」なんてのを、島民全員に運動で学生が働きかけるとか、そういうことをやったらどうなのかなというふうに思います。

特に、弓削商船、僕も弓削は、ここ１年行ってないんだけども、何度も行ってるんです。サイクリングも行きましたし、いきなマラソンは３回出走してます。あの弓削の方までずっと走って折り返して帰ってくるというハーフマラソンだったけど、すごいきれいだったよね。弓削を１回一周自転車でわーとブルーのラインを行ったら、途中で折り返しになってる。「なんでだろう。」って言ったら、「急すぎる。」「だったら行ってみようかな。」って行ったら、本当に急だった。で

も、あの上がったところ、海の風景は絶景だよね。で、最後に、あのときは１日かけてプライベートだったんだけど、弓削一周して佐島一周して、佐島はずっと行って林を抜けるとものすごいきれいな海岸。佐島一周して生名一周して、船で渡って岩城一周したことがあるんだけど。もったいないくらい知られてなかったんで、これは売り出そうというんで、町と話して「ゆめしま海道」という命名をして、今度岩城橋ができたら大々的に売り出すぞ、というふうに狙ってます。ちょっと話はそれましたけど。

９．県の情報発信としてのユーチューブの活用について

愛媛県庁の公式ユーチューバーアカウントについてお尋ねしたい。活用方法がいろいろあると思うが、私の意見を述べさせていただきたい。

まず、愛媛県の現状だが、少子高齢化や愛媛の魅力の認知度が低いことなどが揚げられると思う。認知度については、「スゴ技」データベースや「あのこの愛媛」といった情報発信の場が設けられていると思うが、まだまだユーチューブの発信ができるのではないかと、もったいないのではないか。そこで、三つの解決策を考えてきた。

一つ目は基本事項の改善。ユーチューブを拝見したところ、プロフィール画像やアカウント名が検索しにくく、まだ新しくできたのではないかと思われるプロフィール画像になっていることが分かるが、みきゃんをプロフィール画像にするなど工夫ができる点ではないか。また、愛媛県庁ホームページからのユーチューブへのアクセスだが、わかりやすいところにアクセスがない。これからいろいろな観光を考えていらっしゃるということを伺ったが、ユーチューブへのアクセスが簡単にできることは必要ではないか。

二つ目だが、企業のプラットフォーム化と題し、「スゴ技データベース」の企業だったりコロナで不況の業界が企業の方から宣伝の動画を作成し、県庁の公式アカウントから配信してはどうか。敷居を低くするようなイメージだが、個々の企業がゼロから宣伝活動をスタートするよりも、県庁というインフルエンサーとしては抜群の素材から効率的に宣伝ができるのではないかと思っている。

三つ目だが、企業でやっていく中でやっぱり障害があるかと思う。そこで是非、学生や外部の方と協力できたらいいのではないか。私は愛媛大学リーダーズスクールの修了生だが、ここでは、リーダースシップを学んできた。また、愛媛大学ではスチューデントキャンパスボランティアの映像部もあるので、何かご協力できることがあるのではないか。また、外部として、モブルプラスという西瀬戸内海と台湾の架け橋となるようなウェブマガジンがあり、まだ駆け出しだが、これは紙の「モブル」という松山市民雑誌から、コロナでなくなったので、「モブルプラス」というウェブマガジンになったのだが、これを機にもっともっと発信していけることがあるんじゃないかと思っている。私もここに携わらせていただいているが、自信ある内容をお届けできると思っている。学生や外部と連携して、ユーチューブをもっと盛り上げていけたらいいなと思っている。

是非、中村知事の御意見をお聞かせください。

【知事】

大変おもしろい提案で、今日は担当部署（広報広聴課）、まさにここで担当してるから、うんうん頷いて。でも、課長以上はついてこれないと思うから、若手職員が受け止めてなんか企画してくれるんじゃないかな、と思っています。

もともと、３年ぐらい前、２年前かの１月に、僕自身ＩＴの今後の展開ってどうなっていくのかということを考えていくために、東京の大手ＩＴ企業を複数回ってきたんですよ。是非教えてほしい、ということで複数の会社からレクチャーを受けたときに思った印象は、これすごく変わ

るな、でもどうすればいいか分かんないな、ただ今からなんかやんないと周回遅れになるなということだけは分かったんです。すぐに県庁に電話を入れて、「今、こんなことを感じたんで速やかに組織改編に入ってくれ。」と。で、そのときに指示してできたのが、デジタルプロモーション戦略室、っていう県庁内の組織です。ここには若手の職員を集めて「ともかく結果を出せ。」と言ってはっぱをかけて、かなり高度なことをやっています。ＡＩも使いながら、特に観光プロモーションの海外展開で国別の再生回数の分析やジャンル毎のデータの分析やそれに基づいた次の第二戦略の展開や、相当アドバイザーも入れて細かくやっています。こちらの再生回数は実はすごい勢いで増えています。で、これをやがて絞り込んで的確にピンポイントで情報発信し、来てもらって実需を生み出す、というところまでもっていくっていうのが戦略なんだけれども、これが一つ動いているのと。これはまた翌年、県庁の若手 20 代の子、30 代もいるか、５Ｇの研究会を立ち上げると。５Ｇは曲者で待っていてもなんの便宜性の向上にもならないと。速度は速くなるわ、容量は増えるわって、これは４Ｇまでの延長と同じなんだけれども、そこに多重接続と遅延機能の縮減が入ってくるんで、まさにＡＩが組み込まれる可能性が余地が増えてくると。全く別の使い方が生まれるけれども、そのサービスの使い方ってのは待っていても全然うまってなくて、５Ｇってのは自分たちがその性能を生かして何をやるかってのを考えないと宝の持ち腐れだなってのが結論だったんですよ。だから今この若手チームでやってもらってるのは、医療分野では５Ｇで何ができるの、あるいは観光の分野で何ができるの、福祉の分野で何ができるの、教育の分野でなにができるのってのを横断的に議論するってことをやってほしいということで。申し訳ないけど、僕はそこまで細かいこと分かんないんで、お陰で、県庁の若手職員、優秀なのが多いから、かなりの掘り下げで具体的な事業プラン立ててくれて、今年の６月から、それが予算化され始めています。そういったようなことが全体としてあります。

広報については、まだまだってところもあろうかと思うんで、こういう提案いいと思いますし、学生さんの力、かなり今までも借りてきている経緯があって、例えば、みきゃんっていうのは、もともと国体のためにキャラクターをつくろうって言うんで募集して生まれたキャラクターだったんですね。ひと段落して、これはもう寝ながら考えたんだけど、敵役でもいたらおもしろいなというんで、最初頭に浮かんだのがブラックみきゃんだったんだけど、若手経営者の僕の知り合いたちに何気に話したら、「おもしろいね。」と。「われわれのおっさんでは無理だから、知り合いの学生たち集めて、学生たちに考えてもらおう。」って生まれてきたのがダークみきゃんなんですよ。ブラックみきゃんからダークみきゃんに進化して、今ではこみきゃんまで出てきて、もう学生のみんながプロモーションビデオつくってくれたりね、そういう展開をやってきて今があるということね。たぶん皆さんの先輩方、大学もバラバラだったんで、そういう人たちが大いに力を発揮してくれたと思っています。だからこういう提案はおもしろいですし、特に再生回数とか現状分析までしているんで、この数字を見て原課がどう受け止めるか、まずは担当課長の意見を聞きたいと思います。

（広報広聴課長）

先ほど言われたとおり、愛媛県も今年度からユーチューブもそうなんですけれども、ＬＩＮＥ、フェイスブック、ツィッターについて、そういった県の公式アカウントを開設し、その中で特に最近力を入れているのはＬＩＮＥを活用した取組みというのを進めています。また、皆さん御覧になられたかもしれませんが、ユーチューブを活用した知事の臨時記者会見のライブ中継など、様々な取組みを行っているところです。今日いただいた若い方の柔軟な発想というのもどんどん取り入れていきたいと思っていますので、持ち帰りまして早速検討したいと思います。ありがとうございました。

≪補足説明≫〔企画振興部〕〔経済労働部〕

〔企画振興部〕

YouTube のアカウント名を「EhimePref」から「愛媛県公式チャンネル」に、また、プロフィール画像を「愛媛県」（文字）に変更し、YouTube の動画検索で「愛媛県」をヒットしやすくするなど、利便性を向上させました。

〔経済労働部〕

県では、優れた技術・製品を持つ県内中小企業の販路開拓を支援するため、H27 年度に、県内企業のＰＲ動画を作成し、国内向けに日本語版を、海外向けに英語版を作成して販路開拓ツールの１つとして活用しています。

H28 年度には、企業の同意が得られた動画については「愛媛のスゴ技」としてユーチューブにアップロードしており、多いものでこれまでに１万回以上再生されています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、受注の減少や大型展示会が中止となったことから、苦境にあえぐ県内企業の優れた技術・製品を PR する場として、スゴ技データベース上にバーチャル展示会場を作成し、「建築・建材」及び「農業技術」の２部門において、それぞれ 10 社ずつ出展中（～令和３年３月 31 日迄）。

企業ページでは、１社ごとに３分程度の動画を新たに作成してページ最頭部に配置するなどして、自社の技術・製品の詳細を展示しており、同じ業種を販路開拓先として見込んでいる複数の県内企業をプロモーションすることで、効率的に宣伝し、成約に繋げられるよう支援します。

なお、現在のスゴ技動画は H27 年度に作成したものであるため、更新の段階で県公式アカウントでの発信を検討します。

10. 若者のサイクリングについて

何度も話にでてきたサイクリングについて話したい。

愛媛大学では、環四国サイクリングプロジェクトを３年前から企画している。これは、愛媛大学の学生と台湾の学生と一緒に四国各県でサイクリングをするという、先ほど知事がおっしゃられた四国をサイクリングアイランドにするのと同じような企画だ。今年はコロナ禍の影響で実際にサイクリングを開催することができなかった。しかし、１年目のしまなみでのサイクリング、２年目の高知への四万十サイクリング、と伝統を受け継いできて、コロナのせいで断ち切るというのはもったいないと思い、先日８月 30 日にオンラインの交流を企画、実施した。この企画については愛媛県庁さまからもご支援をいただき、また、自転車新文化推進課のみなさまには大変お世話になりました。

ここで、質問を２点させていただきたい。

まず１点目は、愛媛県の自転車新文化を推進するにあたり、知事が大学生に期待することはどんなことか。例えば、私たちは今回のようにコロナが収束して実地でのサイクリングイベントが開催できるようになるまで継続的にオンラインでの交流を考えている。オンラインでのメリットは場の共有をしなくてもつながれること。そこで、これからは愛媛大学と台湾の大学生という狭い交流の中だけでなく、四国の大学生をつなげていき、サイクリングのすそ野が広がるようにと考えている。私たちのような大学生を対象としたイベントを開催している人に何ができるか、知事はどんなことを期待しているかお聞きしたい。

２点目は、ご提案だが、いわゆるサイクリストではない素人の学生だけを集めたしまなみサイクリングを開催するのはどうか。愛媛大学で開催しているサイクリングプロジェクトで台湾や西条でのサイクリングを通してサイクリングの魅力を感じ、高校時代からクロスバイクに乗りたかったと感じている。そこで、初心者だけを集めた学生だけのしまなみサイクリングイベントの開催はどうか。愛媛県ではサイクリングが身近になってきている今、気になっているけど始められない学生は多数いる。そんな学生が足を踏み入れるチャンスになると思う。何か、愛媛大学リーダーズスクールでできることがあれば携わらせていただきたい。御意見をお伺いしたい。

【知事】

サイクリングというのは、本当にここ数年で身近になったと思います。10 年前この仕事就いたときには細々という状況でした。僕も当初考えていたのは、しまなみ海道を世界に売り込む、そこだけをスタートとしては打ち出したんです。その時点で具体的なプランがあったわけではなかったんです。ただ、しまなみ海道を世界に売り込むことを掘り下げて考えていったときに、四国には３つの橋があって、その３つの橋の中でそれぞれ特色がありますよね。例えば、瀬戸大橋だったら、鉄道併用橋。しまなみは唯一、自転車のサイクリングロードを有している。これしかないと思いました。じゃ、それを活用して世界にとなると、どういうアプローチをとったらいいのかっていうのを自分なりに考えて出した結論が世界一の自動車メーカーと組めばその力を活用して一気にいけるんじゃないかっていう単純な発想だったんですよ。で、すぐに世界一のメーカーを調べてくれって言ったら、最初、日本のメーカーだと思ってたんですよね。とんでもない。日本のトップメーカーはブリジストンという会社で年間 60 万台自転車を生産してます。世界のトップメーカーは台湾のメーカーで年間 600 万台、10 倍の規模なんですよ。ただし、この高級自転車で使われてるのはカーボンという素材で、このカーボンは愛媛県の松前町にある工場で造られて輸出されて組み立てられているというのも分かってきた。これも縁があるなということで、じゃ、その会社に行ってみよう、ということで、10 年前、9 年前に半ば飛び込みで行ったんです。これが運命の出会いで、その会社の創業者は当時 78 歳くらいだったかな、と出会って 30 分、時間をとってもらったんですけど、結局２人で 3 時間以上しゃべって。で、感化されて、僕もその時点ではしまなみ海道を売り出して観光客が来ればいいな、という発想だったんですけど、「違うよ。自転車ってのは使い方。台湾でもそうだったんだけど、日本ではまだその段階だと思う。」と。「みんな自転車っていうと、通勤、通学、買い物に使うというツールという認識しかないんじゃないか。そうではない。自転車というのは活用の仕方を考えると、人々に３つのプレゼントをしてくれるんだ。」と。「一つは健康、一つは生きがい、一つは友情なんだ。これが自転車新文化なんだ。」と。ここが原点なんです。目からうろこが落ちたようだった。

ということは、最初の目標として観光なんかを打ち出したらだめだと。自転車新文化が広がれば、その後に結果的に増えていくんだ、という考え方に切り替えないとだめだなあと思った。帰って来て何をやったかというと、まず、犠牲者をつくった。僕がまずやって、身近な犠牲者は、県庁の部長たち。みんなロードバイクに乗って。次に経済界の社長さんたち、おっさんたち。僕があの時言ったのは、「もう、レンタル自転車でいいから、ともかく体型はいいから、ビチッとしたユニフォームとヘルメットを被って集まってくれ。」と。そうすると、マスコミの皆さんが来て、こんなおっさんたちでもこの格好で楽しく走っているってニュースが流れれば、また食いつきが違ってくるんじゃないの。なんで思ったかというと、台湾へ行ったら、今日本であの格好でロードバイクに乗ってる人は、若い人がほとんどだよね。でも、台湾は逆なんだよ。40 代、50 代、60 代の人たちがまさに健康、生きがい、友情であのユニフォームとサングラスと派手な格好でガンガン走っている。マーケットが全然違うんですね。ヨーロッパもそうなんだよね。まだ、日本がそういうところまでいってないだけで、ロードバイクに乗るってのは若い人たちがやるもんだよねっていう、そこで敷居が高いと思われて入って来ないという現状が起こってるんで、どんどん変えていこうというふうに思いました。

だから、愛媛県では 60 歳以上、定年退職を迎えた人のサイクリングイベントとか、女性だけのサイクリングイベントとか、こういうのは細かくやっているんですよ。学生は乗るもんだと思ってたから、まだ、手を付けてないですね。そういういきさつで、自転車新文化が今日に至っています。

もう一つは、しまなみ海道が本当に世界に発信できるようになったのは、その出会いのお陰だと思っています。初めてその会社の創業者に会ったときに、「実は今度ある地域、日本に走りに行

くんや。」という話になって、「いやいや、あそこもいいですけど、うちの方がもっといいですよ。しまなみに来てください。」って言ったら、「条件がある。おまえも一緒に走れ。だったら行ってやる。」って、「じゃ、走りましょ。」って、その場で初対面だったんだけど、役員会が始まって「計画変更、今度四国に行くぞ。」となって大軍団が来てくれたんで。そこで、しまなみ海道が利用されちゃったんだよね。「これはすごいコースやな、世界に発信できる。」というので、この会社の世界の支店にしまなみのポスターをベタベタ貼ってくれるようになって、世界支店長会も愛媛でやってくれたり、浸透を図る毎に影響力をくれたんですよ。お金を払ってないのに。最初にその社長が来た時に二つプレゼントしてくれた。一つはもうしまなみに魅了されたから、これは出会って３カ月目だったけども、会社の方針で、今治駅構内へストアを出す、これ、一つ目のプレゼント。

二つ目は、愛媛県警にサイクリングユニット隊をつくるための自転車を 10 台クロスバイク、マウンテンクロスバイクを提供する、っていうことでプレゼントしてくれて、今、愛媛県警には日本で初めて誕生した、バイシクルユニットってのがある。広がりっていうのは、本当に思わぬところから生まれるなあということを実感しました。

それを受けて、よし、じゃ次だ。世界で一番のメーカーとのパイプができた。今度は日本で初めてのイベントをやろうと思って、いろいろと考えたら高速道路、止めてみようかなと思ったんだよね。しまなみ海道を止めて世界大会をやろうかなと、いうふうに拡散したら、実は最初の段階というのは、「いや、前例がない。何かあったとき誰が責任とるんや。」ということで、国も反対、架橋側も反対、なんと広島県も乗ってこなかった。「いや、前例がないから。」と。じゃいいや、愛媛県側だけでやったらいいや、ということで、第１回大会は愛媛県側だけでやったんです。で、国の国土交通省ってとこ行ったら、「しつこいから、１回だけですよ。」と言われて、「ただし、条件は付きます。」「何ですか。」って言ったら、「３時間しか認めない。」と。で、「３時間で元の状態に戻すんだったら１回だけ認める。」と言われたんで、帰って県庁職員に「けんかかってきたから、ともかく３時間で返さないといけないんで、３時間超えたら２度と許可下りないから、何とかしてくれ。」と言ったら、県庁職員が土日ボランティアで集まって、カラーコーンの撤去のリレー練習したり、一生懸命訓練してくれて、当日迎えたんですよ。で、雨が降ってたんだけど、頑張ってくれて２時間 59 分 56 秒で返せたんです。今でも 4 秒の奇跡やな、とか言うんですけど。で、それを見たら、賑わいはあるしおもしろい活動の仕方で大成功だったんです。それから空気がガラっと変わってくるんです。まず、広島県が「次から我々も。」って言ってきた。国交省に行ったら、あれほど１回きりだ、と言ってたのが、担当官が笑顔で、「いや、知事、大成功でよかったですね。次はいつしましょうか。」と。おいおい、反対してたじゃないかと。空気が変わっていくもんですね。２年に１回という形で認められるようになり、今日に至っています。

だから、マラソンもそうだけど、こういう大きな仕掛けというのは超えるためにはものすごい反対が山積しているけど、そこが面白い。是非、更なる発展を次の世代でまた見つけてほしいなと思っています。

そこで、若者だけじゃなく、台湾のようにお年寄りも含めてね、楽しめるようになればなあというのが最後の願いなんだけども、台湾というのは、台湾一周サイクリング、というのが世界的なイベントなんですよね。これが大体 1,000 キロ、四国一周も 1,000 キロ、同じくらいなんです。そこに着目して、台湾の自転車協会に声かけて協定を結んだんです。協定を結んで、こちらを一周して、あちらを一周して、両方した場合にのみ、リング、売っていない市販されていない完走した証の、完走しなければ決して手に入らないリングをプレゼントする、という企画になってるんです。一周した場合はブルー、二周してくれたらシルバー、三周やってくれたらゴールドっていうね。生涯かけて追い求められる夢みたいな感じで仕掛けがあります。しかも、そこは、愛媛から始めたんで、四国一周で最後プレゼントする場所は、しまなみの大三島にしてあるわけ。最後はどうしても愛媛に来ないと終わらないという仕掛けになっています。

こういうような形で進めてきていますんで、大学生たちにも本当に敷居は低いから、僕も最初こんなクロスバイク乗れるんかなと、ましてやロードバイクなんか、僕もう還暦だから無理じゃないかなと思ったけど、２回こけたらもう完璧やね。全然大丈夫。すっごい楽しい。もう、世界が広がってしまうんだよね。若い人がもしやるとするならば、がむしゃらにやっても誰も注目もしないし、インパクトもない。例えば、この大学生がやるイベントに自転車マナーを追求するとか、あるいは、コロナ禍におけるサイクリングはどうあるべきなのかってのを追求するとか、あるいは環境問題にひっかけて海岸に漂着するゴミ拾いとリンクさせるとか、こういう社会貢献のみたいなものに結びつくような若者らしい企画をすればおもしろいんじゃないかなと思います。

≪補足説明≫〔企画振興部〕

県では、健康と生きがいと友情を育む「自転車新文化」を推進するため、子供向け自転車教室や、女性、シニア向けのサイクリングイベントのほか、障がい者と健常者が共に楽しむタンデム自転車の体験イベント等の開催による自転車利用の裾野拡大を図っているほか、昨年度には、大学生を対象にしたルールの遵守やマナー向上等の教室を開催しています。

また、現在、四国一周サイクリング推進事業において、学生等による四国一周サイクリングをサポートし、若者目線で四国の魅力を発信してもらう「若者応援プロジェクト」（H29～R 元年度実施。R2 年度はコロナの影響により中止）では、学生の協力を得て、四国一周のプロモーション活動を展開しています。

初心者の学生だけを対象としたイベントについては、学生が主体となって企画・実行するのであれば、県としてバックアップしたいと考えています。

11. 県内宿泊割引キャンペーンについて

先ほどサイクリングということで、観光面で一つお伺いしたい。

私は、道後の旅館でアルバイトをしているが、コロナ禍で実際に観光客がどんどん減っていくのを目の前で見てきて、そこで実施していた県内宿泊割引キャンペーンに感銘を受けた。これは本当に興味本位になるが、これに至った経緯や経済効果が上がっていればお伺いしたい。

【知事】

実は、当初、コロナの影響で最も影響を受けた飲食店、観光業と言われてました。もちろん他にもたくさんあるんだけども、数が減ったんですね。飲食店では、他の県は、東京都方式でやりました。すなわち８時までの休業要請をして、時間短縮要請をして、そこにささやかながら協力金を払う。これが東京方式なんです。僕が思ったのは、これ本当にいいのかな、と疑問を感じたんですよ。なぜなら、そうは言っても、休業要請をする業種は限られている。飲食店が入っていてもそこに漏れたところは、ひょっとしたら自主的に休業するところもある。例えば、銭湯であるとか、いろんなところがね。そこで、なんでうちは出ないんや、という差別、不公平感が生まれるんじゃないかと思ったんです。

愛媛県は飲食店に休業要請も時間短縮要請も１回も出してません。全くやらなかったんです。じゃ、お金ケチったのか、そうではありません。生きるお金を使おうと思ったんです。それが愛媛版協力金という制度なんです。休業要請しませんよ、時間短縮も求めませんよ、だって、時間短縮なんかしたら、何時までしか開いてないんだったら、何時までに行こうね、って、ここで密が発生するじゃないかと。逆効果じゃないかと思ったんですね。

愛媛県は何をやったかというと、「３密対策をやってください。休業しなくていいですから、例えば、アルコール消毒液の設置、列が密集しないようにテーピングをして入る数を確保する、あるいは、アクリル板の透明パーテーションを置いて客の飛沫感染を防ぐ、なんでもいいから、そ

れぞれの飲食店毎にトライしてくれ。」と。「その行動に対して協力金を出す。」と。全く別のことをしたんです。愛媛県の場合、ほとんどのお店がそれを活用して何らかの対策を打っていると思ってもらっていいと思います。ちなみに、この愛媛版協力金を活用したお店が県内で 5,000～6,000 店舗あります。

もう１点は、テイクアウトであるとか、コラボレーション、ごはんをつくってタクシー会社と連携して運ぶとか、こういう新たなコロナ禍におけるビジネスにチャレンジしたところには、別の新ビジネスの協力金を出しましょう、こちらも利用者が 5,000 件ありました。非常にそういう意味では、休業せずに何とか忍ぶという選択をしたのが稀です。

もう１点、今話のあった旅行宿泊割引なんだけれども、そもそも、その時点で国はＧｏＴｏキャンペーンはいずれやります、８月以降にやります、と言ってたんです。あの時点はまだ６月に入ったばかりだったから、じゃこの２カ月どないするねん、と。考えたのがさっきの、コロナを考えると、やっぱり徐々に広めて、感染がコントロールできる地域との交流から拡大していくのがあるべき姿なんじゃないのかな、と。やみくもにやったら、どんどん感染が広がる可能性があるってことを考えたんで、愛媛県としては６月は県内の愛媛県民を対象とした県内旅行を対象として、７月からは四国を対象にして、８月からは全国を対象にと予定していたけれども、東京の感染状況、大都市の感染状況を見ると危ない、というんで中・四国、プラス九州の大分、宮崎、ここは全部調べてみたら、感染者は出てるけども、うちみたいにクラスター対策、症事例毎のコントロールができているということで、ここまで大丈夫だということで拡げて、今日に至っています。で、実際に旅館業界の会長さんやホテル業界の会長さんに連絡して、「愛媛県としては、こういうことをやるんで、是非活用してください。」と。ちゃんと旅行会社も「そういうプランを立てましょう。」ということで、最初、3,000 泊分売り出したら、２～３日で売り切れちゃった。でもここはお金を使うところだということで、どんどん追加して今６万泊くらいまでいって、さらに追加をする予定です。

当面の対策ということになるんで、是非、皆さんも給付金があったでしょ、それは、県内で使っていただきたいと。本当にね、愛媛県はいろんないいところがいっぱいあるんで、この機会に探れば大いに楽しめる時間帯が生まれると思います。例えば、食べ物を巡るのもいいよね。愛南町に行けば、びやびやかつおがあり、宇和島市に行けば鯛めしがあり、鬼北町に行けばきじ肉とゆずがあり、松野町に行けば桃や梅があり、伊方町に行けばしらす丼があり、八幡浜に行けばちゃんぽんやトロール船でとってきた魚の美味しいのがあり、内子町に行けば、ここはみかん作ってないんだけど、ブドウや桃やいちごの産地、久万高原行けば高原野菜、これは生でもばくばく食べられちゃう、食べ物だけでも、南予なんかすごいゾーンになってる。東予は東予で産業が豊かだから、四国中央市に行けば紙産業が集積し、新居浜市に行けば住友の歴史がたどれるし、西条に行けば大手の食品工場や先端産業の工場があって、今治行けば造船、タオル、海運の船だらけ、で、かつ、この山がおもしろいんだよね。石鎚山だけじゃでなくて、西条の石鎚山から新居浜の赤石山系、これ昔住友の銅山があったところで、その歴史をパネルで追っかけてハイキングが楽しめたりね。四国中央市に行ったら翠波高原とかすごいきれいな地帯が待ってるし、なんでみんな行かないのかなと思うくらいもったいない空間がまだまだあります。そういうところに、この愛媛県の旅行宿泊割引を使って、例えば新居浜で１泊しようかとか、普段行かないようなところに使うのもありかなと思っています。

実際、具体的なところは出てきてないんだけども、道後温泉の旅館で言えば、去年の夏と比べると、７、８割は確保できたそうです。もちろん、落ちたけども。有効に使っていただいてくれたんではないかなと思っています。

12. リーダーシップについて

興味本位になるが、リーダーシップを学んでいる身なので、是非、中村知事のリーダーシップのお考えや、コロナの前と後でリーダーシップの考えが変わったかどうかについてお話をお伺いしたい。

【知事】

変わってません。終始一貫して、背伸びをしないということですね。明確な方針を示すということ、責任をとってあげるということです。これに尽きると思います。例えば、オーケストラで例えると一番分かりやすいと思うんだけれども、いろんな楽器を弾く人、プロがいて、タクト振る人がいる。知事とか首長はタクト振る立場、バイオリンは弾けるわけではない。フルート吹けるわけでもない。まあ、シンバルくらいならできるかもしれないけど。それは任せちゃうんですね。その代わり、全体的にはこういうことやりたいんだということを示して、後は動きを見ながらマネージメントする、ということを繰り返しています。この一番大事なのが、実はビジョンのところで、こういう表現しているんですよ。真っ白なキャンバスがあるとする。僕ができるのは、いろんな人の意見を聞きながら、わくわくするような下書きを描くということまで。鉛筆で下書きを描くことしか僕にはできない。その先に、これを皆さんに「こんなのやらない。やらない。」と言って楽しそうな雰囲気をばらまいて関心を引き付けて、参加をしてもらう空気をつくっていく。参加したいなと思ったら、みんなが絵の具をとって絵を描き始める。色を塗り始めてくれる。みんなで完成させる。だから僕の役割は下書きを描くだけだと思ってます。それ以上でも以下でもないので、細かいことは正直言って分かりません。それはカバーしてくれると信じてますから任せっ切り。その代わり、自分がこういうふうのやるんだと決めたからには、もし、失敗した場合は責任はとるよと、いうことだけはいつも思っています。

じゃ、みんなを引っ張っていくためにはどうすればいいか、空気をつくるにはどうすればいいかっていうのは、一つ参考にしているのは、古い人なんですけれど、山本五十六という方がこの国にいらっしゃいました。海軍の大将、元帥であった方ですけれども。当時の戦争に向かう国に対して、「絶対に戦うべきではない。」ということを最後まで唱え続けた。でも、使命は上が決めちゃいましたから、「最初の数カ月だけはもたせてみせます。それまでに止めてくれ。」っていうところまでいったんだけど、ずるずると日本は悲惨な末路をたどっていくんだけども。その方が言っていたのは『やってみせ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かじ』これは永遠だと思います。